

# 日本全国小学校

## ご当地

### 行事紹介

#### 鹿児島市立松原小学校



鹿児島県鹿児島市  
錦江湾(鹿児島湾)の別称

第3回  
鹿児島県鹿児島市  
錦江湾  
横断遠泳



今回紹介するのは、鹿児島市立松原小学校の水泳同好会が毎年7月に行う「錦江湾横断遠泳」。桜島から磯海水浴場までの約4km(約1時間50分)の遠泳に小学校4〜6年の児童がいます。今年は50回の記念大会ということで、実行委員長にお話を伺いました。



さあ、いよいよスタートだ!



桜島を背景に中間地点



手や腕に書きあった励ましの言葉

### 伝統を受け継いで

「錦江湾横断遠泳」の歴史を教えてください。

第1回大会は、大正15年に始まり、戦争などの理由で中断されましたが、昭和41年に再開され、今年の夏で50回を迎えます。同好会から委嘱されたコーチ(先生)が指導を行い、子どもたちが目標達成のための練習を重ねます。それを家庭・地域が一体となって支援するというスタイルで続いている取り組みです。



昭和5年 遠泳記念写真

### 奇跡の3か月!

ほとんどの子どもたちを泳げるようにするって、すごいことですよ。

初参加・未完泳者は赤帽、一回完泳者は黄帽、二回完泳者は青帽と、帽子の色分けをして、目標を明確にさせたり、誇りをもって練習に取り組みさせたりしています。

赤帽のほとんどが、最初は泳げません。

水に顔をつけることもできない子どももいます。しかし、コーチの熱い指導や先輩である青帽や黄帽が居残り練習につきあったり、アドバイスを重ねたりすることでレベルアップしていきます。

5月初旬の練習開始から約2か月で、全員が3km弱を泳ぐ泳力を身につけます。また、週末ごとに検定を設定し、目標を明確にした練習を重ねます。練習開始後5日目で5周検定(1周70mのプールを5周)、その後、10・20・30・40周(30周、40周検定の間は2週間)の検定を行い、40周検定(2800m)が最終検定になり、ここで1時間10分以内に完泳できなければ、海に出ることはできません。



40周検定に臨み、勝関を!

### 子ども同士の絆

子ども同士で遠泳に向けて強い絆ができるって伺いました。

鹿児島には、先輩が後輩を指導し、同輩はお互いに助け合う、いわば学びつつ教え、教えつつ学ぶ「郷中教育(薩摩藩の教育法)」という伝統があります。青帽は、全員完泳のためにできることを毎日練習後に話し合





### 作文

#### 6年生(青帽) から3年生へ 遠泳のススメ



錦江湾横断遠泳への参加をおススメします。理由は、遠泳をすれば体だけでなく心もきたえられるし、錦江湾を完泳したときの達成感をみなさんにも味わってもらいたいからです。この伝統的な行事をみなさんに引きついでもらいたいのです。わたしは錦江湾横断遠泳への参加をおススメします！



### 先生と子どもの絆

指導で、心がけていることほどのよ  
うなことです。

海を4km泳ぐには、泳力だけでなく強い  
気持ちをも身につけなければなりません。

い、自らの泳力を高めることはもちろん、  
赤帽への励ましや泳ぎ方のアドバイスをし  
ていきます。黄帽は、赤帽が泳ぎやすい隊  
列を考えて泳ぎます。赤帽は、自分たちの  
ために一生懸命力を尽くしてくれる頼もし  
い先輩に対する強いあこがれをもつようにな  
ります。「私も優しく力強い青帽になり  
たい！」と。

「郷中教育」による異年齢間の強い絆が、  
錦江湾横断遠泳の伝統をつないでいます。

### 地域にとつこの意義

地域の方々のサポートがこんなによ  
ただける理由は何ですか。

いちばんの理由は、目標に向かい一生懸  
命に努力を重ねている子どもたちの姿を、



ときには厳しく



40周検定を見守るコーチ

自然を相手に命を懸けて挑戦するからには、  
練習で甘やかすわけにはいきません。最高  
の笑顔を見るために、常に厳しく指導しま  
す。泳ぎが苦手な子どもが、目標に向かい  
必死になって練習を重ねることで、力をつ  
けていくのを目の当たりにします。水泳競  
技経験のないコーチも、自ら練習し泳力を  
高めていきます。

昨年(第49回)の  
記念写真



鹿児島市立松原小学校 水泳同好会 第49回錦江湾横断遠泳 2014年8月4日  
桜島(小池)～磯浜 約4.2km 1時間48分  
4年32名、5年41名、6年23名、OB16名、コーチ10名計122名

地域の皆さんが知っているからだと思いま  
す。また、子どもたちを支える保護者の気  
持ちを体験的に知っています。それは地域  
の多くの方が、自ら泳いだり、保護者とし  
て関わったりした経験があるからです。さ  
らに、コーチがボランティアで指導してく  
ださっていることも、皆さんご存知です。  
伝統をつくらせてきた地域の先輩が、伝統を  
守るために強力なサポートをしてくださっ  
ています。